

明けましておめでとうございます。
今年も介護老人保健施設アミスタをよろしくお願い致します。

昨年は、ノロウイルスの流行や暗いニュースが多くみられましたが、アミスタでは笑顔を忘れず、楽しく健康第一に過ごしていくことを心がけていきます。

12月14日には「クリスマス会」が行われ、毎年恒例で千手寺幼稚園の園児たちが遊びにきてくれました。園児たちは手作り衣装を着て、可愛い歌と踊りを発表してくれました。一生懸命踊る姿も見られましたが、中には個性的な動きをしている園児もあり、利用者を和ませておりました。又、園児たちの力強い歌声に元気を分けてもらったようで、利用者の皆さんも大きな声で歌を歌っていました。アミスタからのお礼として、職員が扮するサンタクロースとトナカイから園児たちにお菓子のプレゼントが贈られ、又、利用者の方々にもプレゼントを贈り、お互いに喜んでおりました。昼食にはクリスマス御膳が出され色とりどりの鮮やかな御馳走と、かわいらしいケーキが並び、栄養科からのクリスマスプレゼントも十分に楽しんで頂けたようでした。

新年を向かえた1月9日、気持ちも晴れやかにアミスタの「新年会」が行われました。今年の正月は雪が少なく物足りなさを感じられる入所者の方々もいたのではないのでしょうか？新年会では日本の正月の伝統である餅つきが行われ、正月の雰囲気の花をそえていました。つき始めは職員の慣れない手つきに対し、利用者から「もっと腰を落として！」や「もっと短く持って！」といったアドバイスがありました。リズムよく杵をつき始めると「ヨイショ！ヨイショ！」との掛け声が響き渡りました。昔の血が騒いだのか、何名かの方が自ら進んで餅つきに参加され、会場内は大いに盛り上がりました。この時についた餅は午後のおやつにあんこ餅として出され、おかわりを希望する方もいたほど好評でした。餅つきの後は慰問として三味線の加藤流訓賓会の皆様をお招きしました。部屋の外では1月の寒風が吹く中、三味線の音は新春を告げる梅の花のように室内を明るく彩りました。利用者の皆様も大変喜ばれ、「また来て下さいね」と再会を約束していました。

『アミスタ広報部』

アミスタ新聞

平成19年
2月号



『和』

謹賀新年 明けましておめでとうございます。今年の干支は亥です。猪突猛進と云われますが、アミスタの廊下の壁に張ってある猪の塗り絵には色様々に親子が塗られ、平和な姿です。かの聖徳太子は蘇我馬子と協力しながら政治を進めるに際して、生まれや家柄ではなく、すぐれた仕事をした人を評価する「冠位十二階」を定めて役人を冠の色で区別しました。又、儒教の精神を取入れ「十七条の憲法」を定め役人や民衆がそれぞれの分を守り第一条に和をもって貴しとなし、さかふる(さからいそむく)ことなき宗とせよと説きました。

身の回りを見ると大人は大人、子供は子供、老人は老人同士で群れ集る。これが今の社会のあり様です。老若男女、異質なものが混在する事で社会や文化が成熟して行くと云われます。

ここにも和が必要です。これからもずっと生き続ける言葉だと思います。

施設長 加藤 守

『アミスタからのお知らせ』

- 今後の行事と致しまして、2月「節分会」、3月「ひな祭り会」を行います。
- 風邪、インフルエンザが流行しています。ご家族・ご面会の方で症状のみられる方は、施設内感染予防の為、ご面会は御遠慮下さい。
- 次回の新聞は、4月号になります。

